

あんず (ばら科)



2007 4月 (Apr.)

日 SAN	月 MAN	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	1	2	3	4	5

薬用部位は種子の中の仁で、生薬名を ” 杏仁 (Armeniaca Semen) ” と言います。形はハート型をしており、桃仁（モモの仁）、アーモンドと見分けがつかず。杏仁（キョウニン）は、アミグダリン (Amygdalin)、脂肪油等を含みます。種子を砕くとアミグダリンは、青酸、ベンズアルデヒド（特異な芳香）、グルコースに分解します。中華料理の杏仁豆腐の微香はこのベンズアルデヒドの香りです。

杏仁は、味性：甘、温、漢方（中医学）で、去痰止咳、喘息発作の鎮咳に、腸を潤し通便する等を目的に、潤腸湯、麻杏甘石湯、麻黄湯、清肺湯等に配合されています。

（2006年3月熊薬ホームページ今月の薬用植物より 矢原正治）